

東北学院大学

教養学部
地域構想学科

キャリア教養学科（県立福島高校出身）

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

短大入学直前の三月からです。大学受験に失敗し、途方に暮れていた時に本校での編入制度を知り、編入を目指すようになりました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

一、二年通年の「キャリアデザイン」で編入に関する基本的なこと、志願理由書の書き方、面接等を一つ一つ丁寧に指導していただきました。編入対策の講義が始まるのは一年生の後期からですが、編入を目指している学生の大半は前期から編入に向け何かしら行動に移していたと思われます。私自身も入学後すぐに編入担当の先生に面談をしていただいたり、一年時の夏休み中にスタディツアーに参加したり経験値を上げていきました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語は一年生の前期から編入対策の講座があり受講しました。丁寧にわかりやすく教えてくださいました。また、個人的に英語の勉強法などの相談に乗ってもらいました。小論文や、面接、志願理由書の対策はキャリアデザインで基本的なことから学ぶことができます。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

東北学院大学は夏休みの半ばに受験することを決めました。英語や面接といった点を稼げそうなものを重点に対策をしました。英語はマーク式だったので、過去問や高橋先生からお借りした教材を用い、対策をしました。面接は三瓶先生に何度もご指導をいただきました。本番でも言いたいことがスラスラ言えたので面接練習は必須だと思います。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

一つ一つの多種多様な授業です。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

後悔しないように受験しなさい、というお言葉です。緊張や焦りから自分の本領を發揮できないのはもったいないと思ったので、できるだけ何も考えずに自分を信じて受験しました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

① 絶対に合格するという気持ちで受験しました。

② 本当に合格できるのかという気持ちが強く悩んでいる時期が長かったです。受験は個人戦ではありますが、同じ志を持つ友人がいたので1年半という長期戦にも耐えることができました。

③ 不安でいっぱいでした。ただ不安や焦りのせいで自分の力を發揮できないのは絶対に後悔すると思ったので、余計なことを考えずに試験に向き合いました。

④ 面接時間が他の方より長かったので、アピールができてよかったという安堵感が強かったです。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

最終的には自分との戦いになります。どれだけ自分に打ち勝てるかがゴールへの分かれ道です。それでも一緒に励ましあえる仲間が存在はかなり大きいので、同じ志を持つ人との関わり合いは大事にしてください。編入試験には勉強だけではなく、卒業論文や学外の活動で得た学びも必要になっていきます。試験までの1年半にどれだけ自らの経験値を上げつつ、アウトプットできるかが求められます。机に向かうのも大事ですが、外に出て様々なことを吸収してください。編入試験だけではなく将来の道標にもなりうるでしょう。後悔しないように受験勉強頑張ってください。